



「良書ご案内」

書籍名	復活への底力	著者名	出口 治明
出版社名	講談社現代新書	発行年月	2022年7月

「知の巨人」立花隆氏が2021年4月に亡くなった。現代の「知の巨人」は出口治明氏だと思っている。出口は日本生命を退社後、2008年ライフネット生命を創業し2012年上場、その後2018年、学長国際公募により立命館アジア太平洋大学の学長に就任する。出口は、知識は人生を豊かにし、それを支える力があると固く信じている。「知識は力なり」が出口のモットーだ。

本書は出口が2021年1月に脳出血で倒れ、右半身の麻痺と失語症を発症、リハビリ生活を経て2022年4月公務に完全復帰するまでの闘病記である。持ち前の知識の力で力強く復活を果たした。出口がピンチでも楽観的にいられたのも、自分の治療方針も自分で決めることができたのも知識の力だ。

本書から出口の人生観を知ることができる言葉を紹介する。

- ・ 病気に対峙する心持としては、やはり「人生は楽しまなければ損」が基本です。
- ・ 人生はどうしようもないことが山ほど起こる。「自分はなんて不幸なんだ。」と嘆いても仕方がない。
- ・ 僕が楽天的でいられたのは、これまで学んで得た知識の力があると思います。
- ・ 古希の70歳を超えた時から(生きるも死ぬも)後は神様次第だと心底思っています。
- ・ 「悔いなし、貯金なし」をモットーとしている。人生は1回きりですから、やりたいことは全部やる。
- ・ 何かについて知っているほど、人生の選択肢は増える。選択肢が増えれば増えるほど、人生は楽しい。
- ・ 哲学や宗教は人間が生きていくための知恵を探し出すことから出発した。生きていくための知恵は不幸といかに向き合っていくかの知恵。
- ・ 真の発見の旅とは、新しい風景を求めることではなく、新しいものの見方を得ることだ。(プルースト)

昨年一番刺激を受けた著者は出口治明だ。少し手強い彼の著書を紹介する。「全世界史」(新潮文庫)では、文字が発明されてから現在までの歳月を1本の流れとして5000年に及ぶ文明の歴史を記述している。現在のロシアとウクライナの戦争に対する私の視点が変わった。「哲学と宗教全史」(ダイヤモンド社)には、人類の知の葛藤から生み出された哲学や宗教に挑戦した力作となっている。出口の人生観、人間観の原点を記した1冊だ。「自分の頭で考える日本の論点」(幻冬舎)では、医療・経済・財政・民主主義・AI等日本の様々な論点を自分の頭で考え結論を出している。出口の知識は半端ではない。

私たちが日頃重要視している「知恵」は、「知識」の延長線上にある、究極の姿だと納得した。

岩城

編集後記

2023年はうさぎ年、びよんびよんと跳ねるように日本も経済も明るい材料があればいいのですが、介護業界で言えば、2023年度は第8期介護保険事業計画の最後の年。つまり第9期計画の作成にどこの行政も取り掛かり、8期の最後の枠の消化に努めることでしょう。その上、2024年度は診療報酬・介護報酬同時改定のタイミング。年明けから様々なアドバラン(国民や医療機関、事業者に対する意見発信)が上がることでしょう。注意です! その先にあるのが2025年。これは団塊の世代が全て75歳以上となる年。認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)や第6期介護保険事業計画(2015-2017年)頃から登場し、認知症高齢者が高齢者の20%見込である約700万人になるとそれが、10年後の2025年であると頭に刷り込まれてきた。更に2040年は団塊ジュニア世代が65歳以上になると同時に、団塊の世代が90歳以上になる年。財源確保、人材確保、利用者確保と忙しいが、自戒を込めて対策万全!

発行所：株式会社ライフデザイン研究所

所在地：〒541-0048 大阪市中央区瓦町3-4-87サビル2F

Tel 06-4708-6844 Fax 06-4708-7067

編集人 伊藤

